
名も無い物語

春功

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

名も無い物語

【Nコード】

N3913B

【作者名】

春功

【あらすじ】

名も無い物語は、人の心の奥底にある。物語とは、人の人生と同じだから。一日に人間は様々な体験をする。その一つ一つは思い出、物語として、人の中に息づく。たった一人の人間の思いを綴った物語。

夜によく目が覚める。

気付けばまだ部屋は暗やみに包まれていて、寂寥感せきりょうかんが漂よっている。

「……は」

理由もなく、一言、声を漏らし、素早く自分の腕で目元を覆って、苦しんだ。

――突然の、悲しみが襲ってきた。

ただ一人の真つ暗な部屋で。

音は時計の針が刻む音だけ。

かち、かち、かち、
と。

一人で寝る夜は、寂しい。

わかっている。そんな事、当たり前のことなんだって。だけど、言わせて欲しいんだ。

誰にも、言えないんだから。

家族にも

友達にも

誰にも

だから、お願い。

「……助けて」

暗い静かな部屋で、自分の声が信じられないぐらい大きく、そして寂しく響いた。誰も返事をしてくれることはない。

苦しみながらの夜。

誰も返事をしてくれなくて、また悲しくなった。

「…なんで」

孤独

苦しい

孤独

悲しい

「誰も、助けてくれないの…」

もし、この世に神様が居るなら、僕は憎みたい。

あははは、と

どこかで笑った声が聞こえた気がした。

ねえ、答えて

どうして、僕は苦しんでるんだろう？

一人だから？

僕が嫌いだから？

違う。

自分が、いけないんだ。

だから、せめて懺悔として、泣かせて下さい。

「……………く……………」

誰も見ていないはずだ。

誰もいない部屋だから。

それなのに、誰かが見ている気がする。

テレビが

机が

いすが

僕を見ていて。

それがなんだか、とても憎たらしく思えて、我慢できなくなって、泣いた。

かち、かち、かち、と
時計の針が動く。

夜はまだ明けそうにない。

(後書き)

り
まだ、その人間の人生は続く。その人間が、書くことを止めない限

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3913b/>

名も無い物語

2011年1月1日14時34分発行